

1 名詞 …ものごとの名を表す語。また、名詞と代名詞をまとめて体言ともいう。

活用がなく、主語になることができる。

2 名詞の種類

① 普通名詞 …一般のものの名を表す。

例 海／山／人／犬／愛情／機械／勇氣

※普通名詞の中には本来の意味が薄れた形式名詞も含む。

普通名詞

普通名詞（形式名詞）

例 ・ 為になる本。 ・ きみのためにできること。

※他の品詞から転じた転成名詞も名詞（普通名詞）である。

例 ・ 遠い（形容詞）→遠く（名詞） ・ 遊ぶ（動詞）→遊び（名詞）

② 固有名詞 …人名・地名など、一つしかないものの名を表す。

例 太宰治／アインシュタイン／日本／イギリス／徒然草／北海道／紫式部

③ 数詞 …ものごとの数量・順序を表す。

例 一冊／二番／三人／一キロメートル／二トン／何人

次の文章の―線部の名詞の種類をあとのア～ウより選び、記号で書きなさい。

私はもうすぐ十四歳になる。誕生日は六月二十七日だ。この日はアメリカの教育家であるヘレン・ケラーの誕生日でもある。ヘレン・ケラーは耳も目も不自由で、口もきけないという困難を乗り越えて、福祉事業に尽くした偉人だ。私は彼女のように信念を持った女性にあらがれる。十四歳になろうとしている今、理想の自分になるために、将来をしっかりと考えたいと思う。

ア 普通名詞

イ 固有名詞

ウ 数詞

⑦	①	⑧	②	⑨	③	⑩	④	⑪	⑤	⑫	⑥
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

次の名詞はどんな語から転成したのか。（例）にならって、転成する前の語を書き、その品詞も書きなさい。

（例） 笑い ↑ 笑う・動詞

語

品詞名

① やり直し	↑	<input type="text"/>	<input type="text"/>
② 近く	↑	<input type="text"/>	<input type="text"/>
③ 踊り	↑	<input type="text"/>	<input type="text"/>



1 代名詞 …人やものごとなどを指し示す語。また、名詞と代名詞をまとめて体言ともいう。

※代名詞は名詞の種類の一つと捉える場合もある。

2 代名詞の種類

① 人称代名詞 …人を指し示す語。

例 私／君／あなた／彼／だれ

② 指示代名詞 …事物・方向・場所などを指し示す語。

例 これ それ あれ どれ (事物)

ここ そこ あそこ どこ (場所)

こちら そちら あちら どちら (方角) ※丁寧表現の人称代名詞としても使用される。

こっち そっち あっち どっち (方角)

③ 代名詞と間違えやすい品詞

形容動詞 ↓こんなだ そんなだ あんなだ どんناد

副詞 ↓こう そう ああ どう

連体詞 ↓この その あの どの

一 次の文章中にある代名詞に―線を書きなさい。代名詞は八つあります。

私とヒロトは先生に書いてもらった住所をたどって、智君ちきみの家に着いた。インターホンを鳴らすと、ドアが少し開いて、初老の女性が顔をのぞかせた。

「どなたですか？」

「三年二組の長沢ながさわヒロトの母です。こちらは息子のヒロトです。」

と答えると、女性は何かを知っているかのようにうなずき、

「こっちにお入りくださいいな。」

と私達を招き入れた。どうやら彼女は智君のおばあちゃんらしい。

「智はどこにいったかな。さっきまでここにいたんだがね。離れはなのほうかな。」

二 次の文中の―線部が人称代名詞ならA、指示代名詞ならB、どちらでもない場合はCと書きなさい。

① あちらに見えるのは、五重塔ごじゅうのとうです。

② こちらは私の恩師もりの森先生です。

③ 今日はどちらから来られましたか。

④ 正直、あんな君を見たことがない。

⑤ このあたりで今日は終わりましたよ。

⑥ お前を母さんが心配していたよ。

⑦ どういうことが説明しなさい。

⑧ ぼくは辛いカレーが苦手です。

⑨ ああすればよかったと後悔こうかいするな。

⑩ ポチはいつもここに座って待っていた。



1 副詞 …状態や程度を表し。主に連用修飾語(用言を修飾)になる。

例 ・山がとても美しい。

※用言⇨動詞・形容詞・形容動詞

2 副詞の種類…状態の副詞・程度の副詞・呼応(陳述)の副詞の三種類。

3 状態の副詞…主に動詞を修飾し、その様子や状態を表す。[どのよう] [

例 ・風がそよそよと吹く。 ・ゆっくり歩く]

4 程度の副詞…主に形容詞・形容動詞を修飾し、その程度を表す。[どれぐらい]

例 ・テストの結果はかなり良い。

※程度の副詞は、副詞や名詞を修飾することもある。

例 ・かなりゆっくり歩く。(副詞を修飾) ・もう夜だ。(名詞を修飾)

一 次の文章中にある副詞に―線を書きなさい。副詞は四つあります。

今日は家族で電車に乗ってでかけよう。父の仕事がずっと忙しかったので、なかなかみんなで出かけられなかった。電車の窓から見える山の景色がとてもきれいで、晴れたる空が山の美しさをいっそう際立たせている。

二 次の文中の―線部が状態の副詞ならA、程度の副詞ならBと書きなさい。

① 彼女はわざと私にぶつかったのだろうか。

② 車の中では、ちょっと古い音楽を聴いていた。

③ ゆらゆらと揺れているのは、隣の家の洗濯物だ。

④ 今日はすこぶる赤ちゃんの機嫌が良い。

--	--	--	--

三 次の各文の―線部の副詞が修飾している一文節に、(例)にならって―線を書きなさい。

(例) 母はずっと私を見守る存在だ。

① ミケはいつもとことこやってきて、ちよこんとぼくのひざの上に座る。

② ポチはもうすっかり僕ら家族の一員だ。

③ いきなりその事故が起こったので、現場は騒然としていた。



1 呼応(陳述)の副詞 …… 受ける語に決まった言い方を要求する(呼応する)副詞。

呼応の副詞

↓ 決まった言い方

例 ・なぜゲームをやめないのか。

2 呼応(陳述)の副詞の種類・意味

呼応の副詞

決まった言い方

例 [疑問]

なぜ

か

[希望]

どうか

ください

[打消]

決して

ない

少しも

ない

[仮定]

もし

たら

たとえ

ても

[比喩]

まるで

ようだ

[推量]

おそらく

う

たぶん

う

[打消推量]

よもや

まい

まさか

なかるう

一 次の各文の()にあてはまる語句を、指定された字数(ひらがな)で補って文を完成させなさい。

① もし生まれ変わっ(二字)、今度は男の子になってみたい。

□□□□□□□□

② どうか神様、私の願いをかなえて(四字)。

□□□□□□□□

③ ふわふわの綿菓子(わたがし)はまるで空の雲の(三字)。

□□□□□□□□

④ 彼(かれ)が一人で朝起きてくることは、めったに(二字)。

□□□□□□□□

二 次の各文の()にあてはまる呼応の副詞を、指定された字数(ひらがな)で補って文を完成させなさい。

① あんなに言ったのに、(三字)言うとおりにしなかったんじゃないかな。

□□□□□□□□

② 夜のコンビニには、(四字)女の子一人で行ってはいけません。

□□□□□□□□

③ 残された足跡(あしあと)から、(四字)犯人は一人だろうと思われる。

□□□□□□□□

三 次の文の誤っている語(一単語)に―線を書き、正しい表現に直しなさい。

・何度怒られても、彼は少しも反省をする。

□□□□□□□□



1 連体詞 …一語だけで常に体言を修飾する。

2 連体詞の主な例

「の・が」 この／その／あの／その／どの／例の／ほんの／わが

「な」 小さな／大きな／おかしな／いろんな

「る」 ある／あらゆる／さる／きたる／いわゆる／あくる

「た・だ」 たいした／ばかげた／とんだ

3 紛らわしい連体詞

・ いろんな → 連体詞？ 形容動詞の連体形？ → × いろんだ → 活用できない

よって…：いろんな＝連体詞

・ 小さな → 連体詞？ 形容詞「小さい」？ → 形容詞の連体形は「小さい時」で別の語

よって…：小さな＝連体詞

一 次の各文から連体詞を一つずつ抜き出して書きなさい。

① 地球にはあらゆる動物が住んでいる。

② これはどのケーキよりもおいしいケーキだ。

③ 台風のあるる日の朝、庭に葉っぱが散乱していた。

④ 犯人に素手で立ち向かうなんて、たいした人だ。

二 次の各文の―線部が連体詞ならば○、連体詞でなければその品詞名を書きなさい。

① 私が作家であることを近所の人には話していない。

② この服か、あの服かどれにしようか迷うなあ。

③ 大きい肉まんを二つぐらい食べたいと願う。

④ クラゲになりたいなんて、おかしなことを言うもんだ。

⑤ わが中学校に来ていただいて、感謝します。

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--



1 接続詞 …文や文節をつなぎ、前後の関係を示す。

2 接続詞の種類・働き

例 「順接」 したがって／だから／そこで／すると

「逆接」 しかし／でも／けれども／ところが

「並立」 また／および／ならびに／そして（添加とも捉えられる）

「添加（累加）」 さらに／そのうえ／しかも

「選択（対比）」 または／もしくは／あるいは／それとも

「説明」 つまり／すなわち／なぜなら／例えば

「転換」 ところで／さて／では／それでは

3 紛らわしい接続詞

接続詞

・スマホを落とした。そこで、すぐに交番に行くことにした。

・テーブルがある。僕はそこで宿題をしよう。

一 次の各文の―線部の接続詞の働きを、あとのア～エから選び、記号で書きなさい。

① 外は雪が降っている。が、部屋の中は暖かい。

② スパゲティ、またはカレーライスのどちらにしましょうか。

③ 和菓子が食べたい。例えば、みたらし団子や桜餅がいいな。

ア 説明 イ 逆接 ウ 添加 エ 選択

二 次の文章の（ ）にあてはまる接続詞をあとのア～カより選び、記号で書きなさい。

久しぶりに風邪をひいてしまった。（①）、39度の熱も出ている。（②）、学校を休んで家で寝ていた。（③）、息苦しく、あまり良くない。心配した母は、僕を車に乗せ、病院に連れて行ってくれた。病院の診察室には僕一人が入った。（④）、もう中学生だし、母と一緒に恥ずかしいからだ。診断結果はインフルエンザではなく、単なる風邪だった。（⑤）、薬ももらったし、家に帰ろうとするか。

ア さして イ あるいは ウ なぜなら エ かし

オ だから カ しかも

①

②

③

④

⑤



1 感動詞 ……独立語として、感動・あいさつ・呼びかけ・応答などを表す。

2 感動詞の種類・働き

「感動」

- ・まあ、素敵なワンピースね。
- ・ああ、もうゴールまでたどりつけない。
- 他 おや／はて／わあ／あれ／おお など

「あいさつ」

- ・おはよう、今日は遠足だね。
- ・さようなら、また明日ね。
- 他 こんにちは／こんばんは／ありがとう など

「呼びかけ」

- ・もしもし、長谷川です。
- ・やあ、僕だよ。田中だよ。
- 他 おい／さあ／ねえ／ころ など

「応答」

- ・はい、承知いたしました。
- ・いえ、それは私ものではありません。
- 他 うん／いいえ／はあ／いや など

一 次の各文の（ ）にあてはまる感動詞をあとのア～エより選び、記号で書きなさい。

①（ ）（ ）、これはだれの傘かさかしら。

②（ ）（ ）、きみ、こっちに来るんだ。

③（ ）（ ）、まあなんとかします。

④（ ）（ ）、やっぱり言うのやめとくよ。

ア はあ イ おい ウ はて エ いや

二 次の各文の—線部の感動詞の種類をあとのア～エより選び、記号で書きなさい。

① もう眠ねくなったので、そろそろ寝ねるね。おやすみなさい。

② 今日はとっても良い天気だね。さあ、洗濯物せんたくものを干そう。

③ やれやれ、やっとごみ拾ひろいが終わったよ。ごみのぼい捨てはやめてほしいなあ。

ア 感動 イ あいさつ ウ 呼びかけ エ 応答



一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「仕度の無いのはお互いさまさ。私の家にも、宝^Aなんては、妹と羊^Bだけだ。他には、何も無い。全部あげよう。もう一つ、メロスの弟になったことを誇^Cってくれ。」

花婿^Dは揉み手して、てれていた。メロスは笑って村人たちにも会釈^Eして、宴席^Fから立ち去り、羊小屋にもぐり込んで、死んだように深く眠った。

眼が覚めたのはあくる日の薄明^Gの頃である。メロスは跳ね起き、南無三、寝過^Hごしたか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限^Iまでには十分間に合う。きょうは是非とも、あの王に、人の信実^Jの存するところを見せてやろう。そうして笑って磔^Kの台^Lに上ってやる。メロスは、悠々と身仕度^Mをはじめた。雨も、いくぶん小降り^Nになっている様子である。身仕度は出来た。さて、メロスは、ぶるんと両腕^Oを大きく振って、雨中、矢の如く走り出た。

私は、今宵、殺される。殺される為に走るのだ。身代りの友を救う為に走るのだ。王の奸佞^P邪智^Qを打ち破る為に走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。若い時から名誉^Rを守れ。さらば、ふるさと。

～太宰治『走れメロス』～

① 線部A～Eの名詞の種類をあとのア～ウより選び、記号で書きなさい。

- A
- B
- C
- D
- E

ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 数詞

② 線部①～⑫の品詞名をあとのア～ケより選び、記号で書きなさい。
(同じ記号を何回使ってもよい。)

- | | | | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| ⑦ <input type="checkbox"/> | ⑧ <input type="checkbox"/> | ⑨ <input type="checkbox"/> | ⑩ <input type="checkbox"/> | ⑪ <input type="checkbox"/> | ⑫ <input type="checkbox"/> |
| ① <input type="checkbox"/> | ② <input type="checkbox"/> | ③ <input type="checkbox"/> | ④ <input type="checkbox"/> | ⑤ <input type="checkbox"/> | ⑥ <input type="checkbox"/> |

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞 オ 代名詞
カ 副詞 キ 連体詞 ク 接続詞 ケ 感動詞

二次の各文の線部が接続詞であるものすべてを選び、記号に○をつけなさい。

- ア 楽しかった。また来月USJに行こうね。 イ パンを食べ、またご飯も食べた。
ウ 失敗した。そこで、やり直すことにした。 エ こら。そこでお菓子を食べるな。

三次の文の①②にそれぞれ二字のひらがなを入れて、正しい文を完成させなさい。

・たとえ君と離れよう(①)、決して君のことは忘れ(②)だろう。

①

②

